

大阪府商店街感染症対策等支援事業 来街者アンケート調査結果概要

1.調査目的

大阪府では、日常生活を支える商店街と訪れる府民の皆さまの不安を払拭し、安心して買い物をしていただけるよう、モデルとなる商店街で「感染症対策」や「需要喚起」を実施。この事業効果を測定することを目的とし実施商店街の来街者に対してアンケート調査を実施。

2.調査概要

調査対象	本事業の感染症対策先行実施及び啓発キャラバン実施商店街 14か所
調査実施主体	本事業事務局(大阪府商店街振興組合連合会・株式会社産経アドス共同企業体)
調査方法	現地でのアンケート調査
調査時点	令和2年11月28日から12月11日
回収数	14か所 計711 (1ヶ所あたり50程度)

3.調査結果のポイント

- ・ 商店街への来街頻度(R2年5月頃と12月頃との比較)では、「増えた(14%)」、「やや増えた(11%)」、「変わっていない(58%)」、「やや減った(13%)」、「減った(4%)」となっている。
- ・ 「みんなで守ろう。おおさか」(商店街行動宣言)のスローガンについては、「知っている(30%)」、「何となく知っている(28%)」を合わせると58%が認知している。
- ・ 商店街の感染症対策の認知度は、「消毒液の設置等(48%)」、「啓発ポスター等による啓発(26%)」、「府のコロナ追跡システムや感染防止宣言ステッカー(24%)」の順に多い。
- ・ 本事業での商店街の感染症対策の取組みに関しては、「安心して買い物ができる(25%)」、「ある程度安心して買い物ができる(51%)」を合わせると76%が安心して買い物できると回答。
- ・ 本事業での商店街の需要喚起の取組みに関しては、「購買意欲が高まった(11%)」、「ある程度購買意欲が高まった(59%)」を合わせると70%が、購買意欲が高まったと回答。
- ・ 商店街を訪れる目的としては、「買い物(75%)」、「病院等生活に必要な施設の利用(13%)」、「知り合いとの交流(10%)」の順に多い。